(明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可)(日刊)日曜及祭日翌日休刊　明治四十二年六月十二日(土曜日)　第百三十三號　(一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

京城雜感　片々生

◎中央銀行論 は大分火の手を揚げ來り申候、吾人は何れにしても日本人としては日本を本位として論議致度候、吾儕日本人が韓國に在住し諸般の經營をなすも畢竟は日本の發展に資する所あらんとするに外ならず候、併し日本の發展は決して韓國の不爲には無之候、日本の大陸發展は則ち極東平和の基礎、從て韓國も其好影響を受ることは爭ふ可らず、然らば日本の韓國經營は韓國自身の爲に喜ぶべき事に候、唯總てに於て立論の根據は日本の發展を標準することが必要に候、日本にして發展せざれば韓國も發展不致候、吾人は此點よりして中央銀行論の如きも、日本を本位として割出したる論議に贊成するものに候、根本に於て此趣旨を採らば解決は易々たるものに候。

◎官憲の執拗は 何となく日本の名物の如くに思はれ候、一度言ひ出したる事を引込めるは官憲の威信に係はるものゝ如く誤想して飽迄我意を徹せんと致し民論を壓するは大なる僻事に候、若し夫れ民論に鑑み之を容るゝに吝ならざれば其雅量を讃められ却て威信は行はれ可申候、然るに此理屈は容易に官人には判らず實に濟度致し難きものに候、韓國に於ける我官憲にも往々此傾向を見受け申候、爲に官民間の意志疏通不致往々双方の誤解を招くこと有之候は眞に遺憾の事に候。

◎韓廷側の日人官吏 の行爲に就ては種々の批評あるも、要するに彼等は韓國に傭はれ居るものなれば無論韓國の爲に盡くすべしとの考より總ての行動をなすは甚だ殊勝の事に存候、併し彼等は未だ一を知りて二を知らざる者に有之候、韓國は韓國自身のみにて決して發達は六ッ箇敷候、幵は吾人の言ふ迄もなく從來の歷史は明に之を證す日本人の力を俟たざれば總ての事は發達不致候、然らば日本人の發達を支障するが如き政策を取るは、取りも直さず韓國の發達を妨害する事に相成り候、是れ韓國に對して不忠と相成る譯柄に御座候、韓廷に仕へる日本官吏たるものは能く日本が韓國を保護統治するの眞意を解して行動せられたく候此心得は日韓相互の爲に必要と存候。

〇自己の功名 を焦せるが爲に祖國の利害を顧ざる輩少しとせず、唯々自己の受持局部の事績を擧るに汲々とし、其結果ヨボ連の意嚮を迎へ、或は將來の利害をも攻究せず、指導啓發の意義を沒却して保護政治の眞精神を破壞するものなしとは斷言致し兼候、斯る輩を指導の任に當らしむるは頗る危險千萬に候、惟ふに此弊を救ふには保護政治の眞意を解し、帝國が韓國を保護統治する目的を了解し、且自ら之に任ずるの力あるものを大臣として其抱負を實行せしむるに有之候、次官制度は或は此弊因とも思はれ候。

文苑

百人一首讀替(十)　まゝこ女史投

●清少納言
與夜中になにを夢しれき出でゝ　かへせしあとの東雲ぞうし

●左京太夫通雅
れとづれも絶てかなはぬ關守に　繰したゝれし今のかなしさ

●權中納言定賴
霧ふかきかはなか島のけん信は　しまの花なる信玄のかた

●相摸
淸けれどさかなき人はどり〳〵に　むすばぬ身こそ恨なりけり

●大僧正行尊
あれはてし深山のれくの櫻はな　世の盛さけて咲ずゆかしき

●周防内侍
初はるのついうたゝねの手枕に　はしなく立し戀のしがらみ

(新)(刊)(紹)(介)

●東京經濟雜誌 本號には「外資の高利と內資の低利」「輸出羽二重の粗製濫造」「日糖會社の前途如何」等を掲載しあり(一四九三號一部十二錢東京々橋區彌左衛門町東京經濟雜誌社)

●時代宗教 「彌陀の曼荼羅」「日本武士明鑑」「幽靈實在論と輪廻往說」等は一般の讀者をして以て益すべく以て稗すべし(五十二號一部五錢東京麴町區上六番町)

●旅行タイムス 「旅行に就ての心得」「旅行は平易に計畫せよ」「韓人を驚かしたる最初の旅行」等は本號の讀物なり(二卷四號一部十錢東京小石川區指ケ谷町旅行タイムス社)

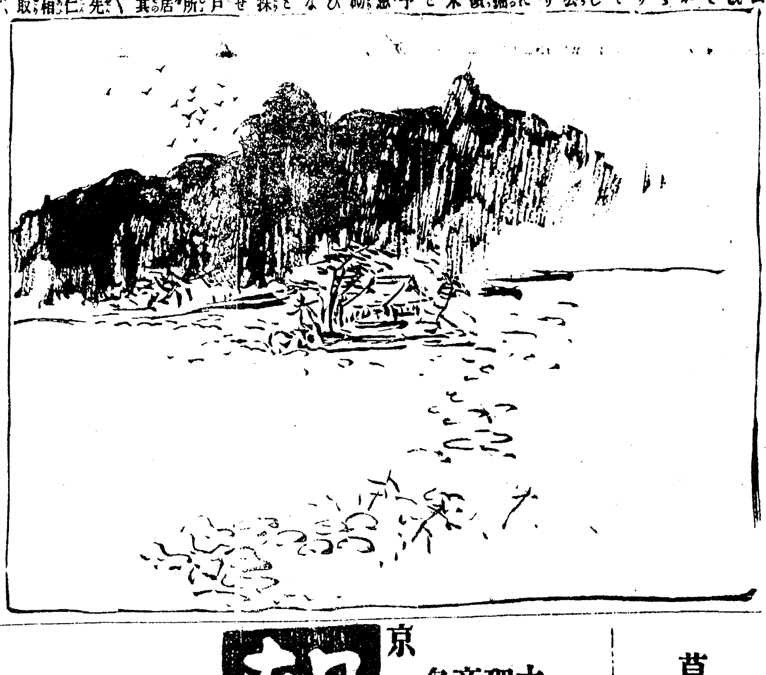
●特許公報 本號には精米械、自働製鹽機、回轉式風力採鹽裝置、籾磨臼外八種の發明の圖解を掲げあり(十號一部十五錢統監府編纂日韓書房發賣)

●憲政本黨々報 「我黨紛擾顛末並に新政黨問題の經過」は雄大なる出色文字なり(三卷八號一部十錢東京芝烏森町憲政本黨本部)

佐倉宗吾　(百四)　眞龍齋貞水講演



何故上野で罪人でも縄を懸ける事が出來ないかと云ふと、宮樣が御住ゐになつて居らせられるに依て、罪人を御山から出す譯にいかぬ、昔時、引廻をして、罪人を小塚原へ送りました時分に、上野の下寺を通りました、其時に上野宮樣が御散歩遊ばされ圖らずも其罪人が御眼に止つて『彼は如何いふ者か』と御尋ねになつた時に、是非なく本覺院から『彼は罪を犯して、唯今小塚原へ送られまして、死罪に行はれますものにございます』と申し上げた、其悄然たる姿を御覽遊ばして『憫然な者ぢや』と仰せられた、其御聲が掛つた許りに、此者が死罪を御宥しになつて、遠島になりました例がある、それからと云ふものは、上野近邊、下寺の邊は、罪付の者は滅多に通ふさぬと云ふ位でございます、死して多くの人の生命に代つて死を決したる宗吾の事ゆゑ袖下を取りまして、上野黑門へ伴れて參り、寺社奉行井上河內守殿へ御渡しになつた井上河內守は、直ぐに本繩を打ちまして、寺社奉行小出因幡守殿へ送りました、扨て將軍家愈よ御歸城に相成りまして、酒井雅樂頭忠世を召出されました、忠世公は今日の御直訴と云ふ事は、既う御存知でありますから、事こゝに及びたりと思召して、登城を致し將軍家綱公へ御目通りをした時に、將『雅樂、堀田上野介領分百姓、木內宗吾郎と申す者が予が上野の忌日參拜の砌直訴に及びしは容易ならざる事と存ずる、採上げ得させた願書は戸田采女正所持いたし居るに由り其方よく〳〵取調べ、先代加賀守仁政の如く相成るやう取計へ』忠『ホ、ホーッ、有難き大命にございまする委細畏り奉る、此事乾度、取調べ仕るでござる』と御受をした、そこで一通り此願書を讀上げる何うしても御前廷で讀上げなければ、納まりが付きませぬ、是に及で戸田采女正が讀上げました、此方は因幡守殿、宗吾を受取つて以來、一通り御調べになりました、所が此事に付きましては、公儀の御大老が受持になつて居るに由つて、早速堀田家へ對し、差紙が着いたしました、御大老より致しての差紙でございますから、堀田家一同の役人は、吃驚いたしましたが、第一番に御喚出になりましたのは城代堀田玄蕃、國家老明石丹波、取締役笠原治平、同役鶴島勘解由、郡方頭取敏尾總藏、同役中村甚太夫、郡奉行坂上庫太、同役村井外記、町奉行中島總左、側用人村岡幸藏、留守居役松澤隼人、江戸家老小島式部の十二人であります、愈よ是等十一人が國表から江戸堀田原の御屋敷へ罷り出ました時に、公儀よりの御沙汰が嚴重でございますから、此處で堀田家に於ては、銘々の帶刀を取上げまして、嚴しく前後を堅め、御喚出の當日を待つて居ります、然る所此方は、小出因幡守殿が宗五郎が御直訴をする迄に、御大老へ御駕籠訴に及んだ事は、上役人だから御存知であるよくせきの事と思召したに由て、嚴重なる中にも御情けと云ふものがあるから、宗五郎は始終御勞りを蒙る、萬治元年も年末に相成りましたに依つて、茲に唯一通り御調べになつて、翌年二月六日に、初めて御調べに取り掛りました、愈よ一同御掛が御出席になりました所で、宗五郎を御喚出に成りました、此時には御評定所に於て御調べになるのだから、正面に大老酒井雅樂頭忠世、御老中稻葉美濃守正則、久世大和守廣久、松平伊豆守信綱、土井大炊頭利房、寺社奉行小出因幡守忠久、大目附坂本右衛門佐、御勘定奉行曾我豐後守、黑川丹波守等、綺羅星の如く、ズッと御椽へになる、此時に小出因幡守より、一通り昨年の暮に御調べのございました事を上申して、又更めて役向年齡、其他殘らず御書留の上、さて御掛が松平伊豆守殿と相成りました。



京城新報

観察使會議不必要

観近地方官吏の會同何ぞ頻繁なる、曰く財務監督局長會議、曰く観察道主計會議、曰く典獄長會議、曰く地方法官會議、曰く道書記官會議、而して昨年の例に徴すれば更に亦觀察使會議は開かるゝの順序也、而も其度毎に大臣次官局長の訓示演説は雨の如く降り、地方官吏は殆ど其訓示に食傷せんとす、當局者としては素より此等の地方官吏を會同して會議を開くの必要を認むる爲なるべしと雖も、余輩は斯く幾多の會同を催ふして訓示するに於ては所謂命令二途に出でゝ却て地方政務の進行に支障を起すの憂なき能はず、是れ地方政務の統一上深く考ふべき事なりとす、現に昨年道書記官會議と觀察使會議とを別々に開會したる結果は所謂政令二途に出でたる姿にて、地方政務の統一を缺きたる如き觀を呈したる所なきにあらず、是を以て見るも幾多別々の會議を開くことに就ては考慮せざる可らず殊に道書記官會議と観察使會議とは同一事項を議するものにて全く重複也、啻に重複なるのみならず、夫が爲に前に述るが如き政務の統一を缺くに至りては恐も亦甚だし、全体ならば観察使を召集して訓示を與へ其意見を徴するを至當とすれども、組織不備にして観察使を韓人としたる爲め余儀なく書記官會議を開くものなれば、書記官會議は取りも直さず地方長官會議也、此上更に韓人觀察使を會同せしむるは全く不必要の事に屬す、道書記官に活きたる働きをなさしめんとすれば之が意見を容れ之に訓示を與へて地方政務の統一を計らざる可らず、日本人たる道書記官を置きて以來は地方積年の面目も稍々革るに至りたるも、五百年の腐敗は尚ほ未だ容易に革るに至らず前途頗る遼遠也、然れども韓國の指導と云ひ改善と稱するも地方政務の革新改善こそ根本也、如何に中央政府の機關備はり文明式の形体を具備するも、地方政治にして今日の如き状態にては保護政治の完成は容易に遂行する能はず、是を以て余輩は道書記官の活動を希望すること切也、從て道書記官をして其手腕を振はしむる便宜を與ふるの必要を認む、然るに重複なる觀察使會議を開きて更に觀察使の意見を聽き以て幾分にても書記官等に制肘を與ふるが如き事ありては其間圓滑を缺くのみならず、政務の不統一となり其手腕を鈍らしむるに至る、是れ豈地方の政務を刷新改善するの所以ならんや伊藤公は一の政略より觀察使等を會同せしめたらんが、斯る政略は害多くして益少し今年亦此愚を繰返すの必要なし、道書記官の會議の後に觀察使會議を開くは眞に蛇足と云ふべき也。

東京電報

▲新統監親任式 延引せし

親任式は去る九日諸案件悉皆解決を告げしを以て愈々十一日執行の筈なりし處宮中の御都合に依り一日を延期し明十二日舉行さるゝ事に決せる由（十一日午前十一時）

▲中央銀行問題

韓國中央銀行問題に就き政府より八日覺書を第一銀行に交付したるが其内容は兌換券發行權を停止し既發行の分は一定の期間内に回收し韓政府は報酬金を交付すべし而して頭取澁澤男は覺書通りにては甘諾し難き旨を回答したりと（以上十一日午前發）（日本電報通信社所報）

外報一束

●同盟罷業落着　布哇のエワ及びワイルア、カフクの三砂糖耕地に於ける日本人同盟罷工者は罷業を繼續すべきや否やにつき投票したるに其の結果七日朝より以前の給料にて復歸する事となりしがエワ耕地の如きは罷工を繼續すべしと云へるもの千五百名の内九十人ありしのみなりと

●塞太子日本行　塞耳維前皇太子は日本陸軍を研究する爲日本行を爲さんと希望し居れりと

●露國製艦可決　露國上院は曩に國民議會の否決せしドレッドノート型戰艦四隻建造案を可決せる由

●警部殺害さる　漢口日本領事館附警部鹿兒島縣人中村善次郎氏は部下の巡査野本德彌の爲めに七日午後十時領事館に於て慘殺せられたり原因は被害が加害者の職務怠慢を責めたるを遺恨に思ひてなりと

雜報

●租税徴收状況

本年度に於ける租税は關税を除きて其の豫算約七百万圓なるが今日までの調定額は七百三十五萬八千圓にして向後調定せんとするもの約百万圓の由にて四月末日迄の實收三百六十二萬圓あり此成蹟よりすれば明年五月の納税最終期までには良好の成蹟なるべしと當局者は觀測し居れりと云ふ

●酒井政平破産

久敷問題となり居りたる酒井政平に對する大韓天一銀行の破產申請事件も京城理事廳裁判所に於て一昨十日決定し裁判所は酒井政平名義の財産に對し悉く封印を施したり理事官の選命したる管財人は和田常一、若川廣濟、河村尙德の三氏にして債權者債權申出期日は來る九月三十一日債權者會議は十月十五日午前十一時債權調査會は同月同日午前十二時に開かるゝ筈なり因に酒井政平が天一銀行に向つて支拂を停止したるは四十一年四月六日なるを以て破產法第九百九十條により同人が支拂停止前三十日

内に從來負擔したる債務の爲に新に提供したる擔保は財團に對しては當然無效なるべし

●黒鉛の需用と價格　既報の如く近來韓國の黒鉛は世界に紹介せらるゝに至りて年々其産額を增加せるに就ては外商等の之れに注目するものゝスキバ、サミユール、ヤールウオルテル等の諸商會あり何れも外國人の手に據りて輸出せらるゝことなれば將來の價格は需用の一定せる此品に對し〻新用途を見出す迄は最も注意すべきものなりと

●親任式と統監府　新統監親任式は別項電報欄にある如くなるが尚十日付を以て一兩日中に擧行さるべき旨統監府に電報ありたりといふ

●韓皇韓皇后養蠶視察　韓皇並に皇后は十日午後二時半秘園内なる養蠶室に成らせられ親しく養蠶狀況の上五時還幸相成たりと

●宇佐川總裁の訪問　宇佐川東拓總裁は十一日午前度支部に鈴木次官代理を訪問し驛屯土引繼方法に就き協議する處ありたりといふ

●救世軍と韓人傳導師　救世軍は韓國に於ける信徒募集の爲め韓人傳導師を採用する筈にて目下之れが人撰中の由なるが其給料は三十圓内外なりと

●臨時學事擴張費　學部にては六月三日付を以て臨時學事擴張費として豫備金中より金七千九百圓を支出することゝなりたるが右の費途は官立仁川日語學校が實業學校に組織を變更されたる結果之れに伴ふ校舍の擴張及間島普通學校校舍の新築に支出するものなりと

●營林廠龍山派出所　韓政府は今年度に於ける各官廳の建築材料として西北營林廠より約七十万圓の木材を購入する筈なるが營林廠は販路擴張の爲め龍山に派出所を新設する事に決したりと

●韓人名義の不便　韓國人は其習慣として數箇の名義を付し居るにより平素に於ける不便は勿論殊に公用の場合に於ては税金の徴收等に當りて昨年用たる者が同一人にて本年は乙たることあり當局者は頗る困難を感じ居れりといふ

●正貨準備の現在高　第一銀行が兌換券發行の正貨準備として貯へ居れる貨幣は六月五日の現在高にて三百廿萬圓なるが此内京城支店にあるは金貨三萬七千圓日本兌換券六十三萬圓韓國金貨百四十四萬三千圓にて各支店出張所には金貨三萬五千圓日本兌換券百十七萬五千圓なりといふ

●學部出張員の歸任　代用私立普通學校補助金支給の件につき學部は過般來各道に視察員を派せしが京畿、黄海道、平安南道、江原道、方面に向ひたる吏員三名は昨日歸任したるが尚近日四五名

を各道に派遣する筈なりと

●女學校と奬學會　九日北署北壯洞進明女學校内に漢城府内各女學校職員會合し漢城女學校聯合奬學會組織の件に就き協議會を開きたるが先づ崔明女學校教師余秩禮黄を會長に推し副會長に官立漢城高等女學校教授尹貞媛總務に私立養心女學校教師阿蘭史を選びたるが事務所は更らに協議會を開きたる後にて決定すと

●一銀五圓券の發行　改版印刷中なりし第一銀行五圓兌換券は愈々七月一日より發行する事に決定したる由該券の寸法は縦二寸七分五厘、横四寸七分表面右方に慶福宮光化門の與景を寫し左方の空白には菊花唐草を以て擁したる李花章を現はし表面の彩色は黑色橙黄色及淡綠色なり又裏面の彩色は紫色及淡綠色にて他は改版十圓券と異る所なし

●道書記官會議（農商工部所管）

農商工部各道書記官會議は十一日午前九時三十分より大臣室に於て開會せり趙大臣は別項記載の如く訓示演說を爲し終つて菊池次官代理の演說あり、續いて諸種の諮問事項及び注意事項の說明等ありて午後四時散會したるが猶は十二日も開會の筈なりと

趙大臣の訓示要項

孟夏に際し諸君が遠路行走、參集せられたるの勞を多謝す伏して惟ふに大皇帝登臨の初め百官有司を率ひて太廟社稷に展謁し恭しく神靈に誓告せられたる六條の誓文の中に朕は桑農を勸め商工を奬め國富を開發して立國の基礎を鞏固にすとの旨を宣し給へり爾來產業の發達は陛下が夙夜襟を惱ませ給ふ所にして是れ曩きに南西に巡幸し東籍田に親耕せられたる所以又皇后陛下が宮中に親蠶せられ水原に蠶業を親閲せられたる所以なり本部は宜しく聖意を奉体し常に產業の保護奬勵に努力す諸君も亦克く聖慮の在る所に鑑みて觀察使を補佐し郡守を指導して道內產業の發達を圖り風氣を一變し人民をして自働自活の道に志さしめ糾然相率ひて各其の業に精勵せしめられん事に盡力せられんことを希望す、斯の如くにして中外共に謬らずんば以て維新更張の大業に翼贊することを得んか若し夫れ委細の事務に至りては次官以下各局課員に就て審議せられんことを切望に勝へず

●十日の京城民會　京城民團議會は十日午後九時十分より開會出席者十一名にして缺席者八名中島氏の發議により去月廿九日の民會に於て決定せし議事廳に上申したる豫算に對し一部更正に關する追願事項を協議決定し起案委員には曾我、中島、大村、古城、山口の五氏を擧げそれより瓦斯會社道路使用に關する委員の報告あり協議の結果決定に至らず十一時廿分散會し更に十二日委員會を開き十四日總會を開く筈

●京商議員半數改選　來る卅日改選さるべき京城商業會議所議員半數十二名は民間有志者間の協議によりて舊議員中より九名を候補に立つることゝし新たに候補に立ちたる森村太郎、小川勝平、池田長次郎、古城綜之助の四名を候補に立てたる一團は是非共當選せんと期し居れば舊議員九名に對し一名は何人か落選者を生ずべく從つて兩派の競爭は免かれずと增田三穂、林田金次郎二氏及兩派の間に立ちて調停を試みつゝある由なるが五十八銀行の百三十に合併したる結果として五十八の笠原氏は當然失權者となるべきを以て此際退職せんことを勸めしに承諾を得たれば新候補者四名をも京城有志團体より聯合して選擧するに至るべく此外大橋德次郎氏外一兩名獨立の候補者現はるべきも聯合派の勢力盛なれば到底當るべくもあらずと電報通信の報じ來りしまゝを

寄書

韓國中央銀行論（八）

ケー、シー生

（其の六續き）

(五)第一銀行が紙幣發行に伴ひ必要上約束せる契約の整理

日本より韓國輸入の綿布綿絲の荷爲替に對し低利（年五分の）資金を供給する契約

荷爲替に對し低利（年五分の）資金を供給する契約は本號疑問の適例なり我日本政府は綿布綿絲の輸出を奬勵するの精神に因り紙幣發行の特典ある第一銀行をして特別に低利なる資金供給の義務を負はしめたるものなれば特典の解除と同時に此義務の解除を受くべきは當然の事なるべしと雖も若し第一銀行の義務解除と共に綿布綿絲の荷爲替に對する低利資金供給の途杜絶するときは本邦重要貿易品の輸出に大なる打撃を與ふるか上に其當業者も亦不測の損失を蒙むるべき境遇に陷らざるを得ず之れ特權解除に伴ひて必然に發起すべき結果なり此に於いて特權の解除者たる政府は豫じめ此弊を防止する方策を立つるを要し第一銀行も亦政府との協定事項中に此の種契約の承繼者を定むるの一事を加へ以て其整理を全たふするが當業者に對する責務なるべし新設の中央銀行をして此契約の承繼者たらしむるは最も便宜の方法なるべきも韓國の中央銀行が在日本の商業者に特種の低利資金を供給するは形式に於て穩かならざるの嫌あるに依り實際の手續としては別に適應の方法を案出するを可なりとす此問題に就ては在本邦綿布綿絲輸出業者は大藏省に向つて此際何等かの交渉を爲すの必要ありと信せらるゝなり

●趙農相の招待會　趙農商工部大臣は各道書記官の入京を機とし十二日午後六時より花月樓にて招待會を開く筈なり

●チース博士の渡日　滿鐵東亞經濟調査局顧問チース博士は十日朝渡日せり

●大臣の麥稈工場視察　十日各部大臣は南大門外なる桐原氏の經營に係る麥稈工場を視察したる由

●傳習所補助金申請　光州機業傳習所設立者佐藤齋藤の兩氏は此程農商工部に對し五百餘圓の補助金を申請したる由

●蔚山の埋築計畫　蔚山郡大峴面大井洞の海岸に沿ひたる地先千六百五十坪を埋立て繫船岸を設け陸路の車道を完全にする爲め埋築計畫を爲すべく同地日本人會長より請願書を添へて其筋へ認可申請を爲したり

●釜山昨年の屠獸數　釜山に於て一年間若干の屠獸畜を爲せるかといふに昨年度に於ける釜山養畜株式會社の總數によるに牛一千二百八十頭、豚九十五頭合計一千三百七十五頭なりといふ

●出入船舶と乘降者　仁川港一昨日の入港船は木浦丸、安東丸、隅田川丸、共同丸の四隻にして出港船は隅田川丸、安東丸の二隻而して同日の上陸者は男百九十八人女二十三人乘船者は男三十九人女八人なりと

●福岡工藝團の退京　過般來韓國工藝狀況視察のため入京中の福岡市工藝團体副會長古川德太郎氏外十七名及同市商工課長堀龍驤氏の一行は十日退京仁川へ向へり

●佐藤副理事官入京　平壤副理事官佐藤金助氏は小阪鳩を隨へ十日入京十一日午前統監府へ出頭し事務の打合せを爲したりと

●橋本副理事官出張　仁川副理事官橋本豊太郎氏は新義州へ出張を命ぜられたり

●中川參事官の入京　內閣法制局參事官中川健藏氏は韓國視察の爲め十日入京巴城館に投宿せり

●南山本願寺說教　同本願寺にては土曜日につき午後八時より例の如く說教あり

●判檢事異動　地方在勤の判檢事は六月四日附を以て左の如く轉補發表されたり

光州地方裁判所部長判事　前田信兆
補全州區裁判所判事
海州地方裁判所部長判事　津末有隣
補春川區裁判所判事
大邱地方裁判所部長判事　中村敬直
補海州地方裁判所部長
京城控訴院判事　森嶋彌四郎
補大邱地方裁判所部長
仁川區裁判所判事　大谷信夫
補仁川區裁判所判事
晋州地方裁判所判事　菅友次郎
補釜山區裁判所判事
咸興地方裁判所判事　太惣治
補元山區裁判所判事
元山區裁判所判事　祐乘坊紀郎
補咸興地方裁判所判事
京城地方裁判所判事　水野正之丞
補京城控訴院判事
羅州區裁判所判事　栗原忠恕
補光州區裁判所判事
晋州地方裁判所判事　三浦順藏
補釜山區裁判所判事
光州區裁判所判事　垂水宰吉
補羅州區裁判所判事
同　上　鈴木林次
補全州區裁判所判事
公州地方裁判所檢事　小野篤次郎
補清州區裁判所檢事
晋州地方裁判所檢事　橋本二郎
補義州區裁判所檢事
大邱地方裁判所檢事　豐田俊助
補海州地方裁判所檢事
海州地方裁判所檢事　新藤寛三郎
補大邱地方裁判所檢事
咸興地方裁判所檢事　堀勘治郎
補晋州地方裁判所檢事
清州區裁判所檢事　田中永次郎
補公州區裁判所檢事
義州區裁判所檢事　石川信重
補全州區裁判所檢事

●天氣豫報（自十一日午後六時至十二日午後六時）

九日　最高溫度　最低溫度　（華氏）[illegible]

公人私人

▲山岡茂五郎（釜山税關長）入京中の處十日歸任す

▲淵邊中吉（鹿兒島縣商工課主任）同日仁川へ

▲市川繁夫（技師）十日入京天眞樓へ

近事片々

▲暑氣弗々加はりて海水浴温泉遊びの季節は來らんとす政治談の如きは最早暑苦し

▲世上の所謂紳士なる者は弗々別莊に移り綠蔭深き所に美人を侍らして得々然たり

▲伊公山公の如きも宜加減に裟婆氣を離れて大磯小田原の松吹く風に安臥するが可

▲統監更迭發表を一段落として桂の大頭も寵妓れ鯉を伴ふて悠々閑遊すべしと聞く

▲大人曾禰子統監となり來任せば何れ其處の寵妾を伴ふて温陽邊に悠々閑臥するや

▲例の際物師的の宋秉畯は腕を扼して乘すべきの機を覗ひつゝありと或は然らんか

▲渠は眼前の機智に富めり其怪手腕は何處に閃くか渠や何時頃に歸韓すべきか

▲然れども柳の下に何時も鰌は居らぬ一昨夏の政變に乘じたる如き事は滅多になし

▲清津の自由港となれるに就ては露國は逸早くも領事館を設置せんとす遅れ至當也

▲清津の開拓は露領の貿易に多少の影響あり寧ろ進で豆滿江畔の開放をも斷ずべし

▲露國の黑海鐵道布設決定線路は四萬七千六百有露里也と露助の施設は兎に角雄大

▲是に反して韓國經營の骨髄とも云ふべき京元若しくは平元鐵道にも未だ着手せず

▲埃及王弟は日本觀光の爲に渡來せんと韓國に來りて保護國の實況を見ば感深らむ

▲塞爾維亞太子も亦日本に來らんと而も日本陸軍の實態を研學の爲なりとは感心也

▲日本は由來東歐との關係薄し從て巴爾幹の政變に冷淡今後は我外交も更に延びん

▲伊太利皇后陛下の日本來遊は中止せられたりと云ふ御事情はあらむも遺憾の至也

▲白王レオポルトも最早來遊せらるべき頃なるが未だ何等の音なきは如何の次第か

▲新渡戸博士は一高を辭せんとの説あり而も學生等に持てざる爲とは些と不可解也

▲博士は今の學界に於ては最も有數の人而も官學の弊なく所謂萬綠叢中の紅一點也

▲英國一婦人選擧權問題で首相に面會せん爲自身を郵便物とし首相邸に郵送を求む

▲人間は郵便物に非ずとの規定なき爲に郵便局も無余儀郵便物として首相邸に送る

▲首相亞氏も呆れて奇怪の郵便物受取るべき筈なしと符箋し送返せりと近來の珍事

●順炭の南清輸出　近時撫順炭の聲價は普く各地市場に認められつゝあるが近日營口より同炭三千噸（大部分は粉炭）を長昌號に積載して上海に輸出すべく又來月十五日より二十五日の間に於て同塊炭五百噸切込二百噸粉炭三千噸合計三千七百噸を巴丸に積載して大連港より香港市場に向け輸出する筈なりと

●パゴダ公園の奏樂　韓國税關局にては例年の通夏季中毎木曜日パゴタ公園に於て宮内府樂隊を聘して奏樂を演じ一般公衆に參聽を許す由にて其時間は左の如し

▲六月十日開始（毎木曜日）午後四時半より六時迄▲七月一日より中旬迄（同）午後五時より六時半迄▲八月十五日より末日迄（同）同▲九月中（同）午後四時半より六時迄▲十月中（同）午後四時より五時半迄

●金融組合と技手　韓政府は金融組合に對し各一萬圓宛の資金を下附し且昨年末迄に十箇所を設定し本年中に更に五十箇所を增設し全國を通じて百箇所と爲すの計畫を立てたる事は屢々報道せ

●撫順炭の南清輸出

近頃撫順炭の聲價は普く各地市場に認められつゝあるが近日營口より同炭三千噸(大部分は粉炭)を長門號に積載して上海に輸出すべく又來月十五日より二十五日の間に於て同塊炭五百噸切込二百噸粉炭三千噸合計三千七百噸を巴丸に積載して大連港より香港市場に向け輸出する計畫なりと

●パゴダ公園の奏樂

關税局にては例年の通夏季中毎木曜日パゴダ公園に於て宮内府樂隊を聘して奏樂を演じ一般公衆に觀聽を許す由にて其時間は左の如し

▲六月十日開始(毎木曜日)午後四時半より六時迄▲七月一日より中旬迄(同)午後五時より六時半迄▲八月十五日より末日迄(同)同▲九月中(同)午後四時半より六時迄▲十月中(同)午後四時より五時半迄

●金融組合ご技手

韓政府は金融組合に對し各一萬圓宛の資金を下附し昨年末迄に五十箇所を設定本年内に更に五十箇所を新設し全國を通じて百箇所と爲すの計畫を立てたる事は屢々報道せしが尚農事改良を助成する爲め昨年末迄に十三箇所の組合に技手官を配置し又本月中に更に三十七名を增配し總數五十名と爲す事に決し此程其任命を終了したる由

●天氣豫報(自十一日午後六時至十二日午後六時)

南西の風晴

九日 最高温度(華氏)二六〇 最低温度 五二、二

京城居留民團公文

京城居留民團告示第九號

明治四十二年度當民團歲出豫算左ノ通更正ノ件居留民會ノ決議ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ

明治四十二年六月十一日

京城居留民團民長 熊谷頼太郎

明治四十二年度京城居留民團歲出更正豫算表

歲出

經常部

第十二款 豫備費

既定豫算額金九千七百三十七圓

更正豫算額金六千九百八十七圓

小計

既定豫算額金十六万九千五百六十二圓

更正豫算額金十六万六千八百十二圓

歲出

臨時部

第六款 特別會計補給費

既定豫算額金二千圓

更正豫算額金四千七百五十圓

第一項 漢城病院補給費

既定豫算額金二千圓

更正豫算額金四千七百五十圓

小計

既定豫算額金五萬六千六百一圓

更正豫算額金五萬九千三百五十一圓

合計

既定豫算額金二十二萬六千百六十三圓

更正豫算額金廿二萬六千百六十三圓



●司法官の面汚し

▲野性的大暴動▼

過日の司法官及び典獄會議に出席の爲め各地より上京せられたる役人樣の内に晉州地方にてケンジチヤツとやら云ふ恐ろしい役を勤めらるゝ樋口とか堰口とか云ふ高等官ありけり久しき無趣味なる田舍暮しに餓へ切つたる腹の虫は同僚と共に投宿したる京城一の新設大ホテルの珍客さて見て料理番の腕を揮つた御馳走に何を出しても美味々々でビール結構ウイスキー上等日本酒御座れと二三日か程はシルクハツトもフロツクコートも何ちも不用ないサツサと持つて來食つてやろと會議に出ても上の空飲む程に食ふ程に流石餓へたる痩せ腹も忽ちの間に張り切れん計りの滿足に何んさ云つても京城は韓の都ツツと此の儘此家の子に成つて了ひたいアー養子の口は無からうか、なんどと悦に入つて居た内は天下泰平何事も無かりしが畜生の悲しさ腹が張ると同時にムクムクと頭を擡げ出した助平根性、併し如何に設備完全なるホテルでも此れ計りは供給を仰ぐ譯けに行かず肥肉を抱ねて堪ね難きを忍びたる幾夜の後決心の臍を固めて一夜の遠征を試みんと思ひ立ちたりしも何にしろポツト出の田舍者の事とて何方が西やら東やら全体何方へ向つたら思ふ敵に出逢ふべきか夫れさへ知れぬホンニ雲掴む樣な搜しもの如何に燥ても焦つても力づくでは行かぬ事然りとて此の儘濟まさうとて濟まぬは胸の裡ならで騎虎の勢止まり難き意の駒一晩凝らし考へ通した結果案じ出した一策は此所の女中のれ何と云ふ東京仕込みの中年增彼女を一番口說落して呉れんには藝妓や女郎の樣に金も費らず一擧兩得とは此の事なりと斯る場合にも持つて生れた吝嗇漢の本性は失はず時機こそあれさ覗い回せし甲斐あつて一夜のこと同僚の誰彼は皆何方へか出で行きて匆々歸る景色もなきに德孤ならずと打ち喜び夜食の給仕に出でたるれ何に酌をさせつゝ夫れと說なしに小當りに當つて見れば案じた程にもなく何うやら物に成り相なるにぞ今は一刻の猶豫前後の思慮もなく白魚を列べた樣なお何の手を取るより早く引き寄せて怪しかる擧動に及ばんとするにぞ唯今迄は戲言とのみ思ひ居たるれ何は仰向反る計りに驚きしも對手が身分のあることなれば轟く胸を打ち鎮め採られし手をは振り拂ひ妾の樣な正直者を……罪がれ深うて居らしやるわさ空氣銃程の優しき肱を與れたるも既に目も眩み氣も顛倒し唯々れ何の艶なる姿に魅られし堰口は何の言葉も耳に入れず飛びも蒐らん樣子なるにぞれ何も今は堪らず身を起しざま逃げ出したるを逃しは遣らずと追ひ縋るにぞ姐さんと叫び樣れ何は女中溜りへと逃込みしに女に餓へし大色魔堰口は阿修羅の荒れたる如く續いて女中部屋に飛び込み樣矢庭にれ何の襟許を鷲掴みに引つ立てんとするにぞ今迄はれ客と思へばこそ棄て置きたれ斯くなりてはれ客も飛脚もあるものかと寄つて集つて押し鎮め扱一同の女中襟を正して御身分柄を覺し召せと人の惡事を懲す身の此の強意見に面目ないと恐入るかと思ひの外能くも耻辱を與へたなと猛然として自分の部屋に引き下りたるが翌朝になるや直ちに同僚を促がし立て此樣な窮窟な宿屋に居られるかと直ちに何處へか轉宿したりと云ふが果して事實なりとすれば司法官の面汚しと云ふべく相當なる社會的制裁を彼れが頭上に加ふるの必要はなきか

●大和町の情死

▲女は酌婦男は官吏 ▲短銃を以て射殺す ▲男は即死女は重傷

昨日午前四時四十五分太和町一丁目三百二十七番戶料理店金花事山田きん方の一室に於て天明を破つて二發の銃聲轟き茲に悲慘なる短銃情死をなしたるものあり今左に之を詳記せん

▲兩人の素性 男は官邊に身を置く者にして官廳の威嚴にも關すれば茲には其職業身分等を預り只單に小松稠(三六)とのみ姓名を記することゝせり又女は靜岡縣駿東郡靜浦村字國野下百十五番地安達喜七郎長女みち(二七)とて前記金花の酌婦なり

▲兩人の交情 何時しか兩人は契りを結びしに小松は若氣の余り只モー夢中になつて通ひ詰めみちも憎くからず思ひ互に無理算段をして逢瀬を重ねしが女は僅かな前借さへ爲して魔窟に身を沈めし位ひ又小松も余り多からぬ給料にて生活せる身とて何時しか借金嵩まり首も廻らぬ始末となり、其れが爲め職務も自然不都合となり上官の信用も薄く友人よりも制肘を受くるゝと云ふ有樣につくづく浮世を墓なみ戀慕ふミチと手を取りてイツソ未來を樂まんと遂に情死を決したるぞ愍かなれ

▲短銃で往生 小松は一昨夜宵の中より金花に來り例の如くミチを呼びて互に酌み交はし深夜に至りて寢に就きしが翌朝午前四時三十分過ぎに至り小松は匿せし短銃取り出しミチの左耳上部に突き當て一發ドンと放らミチのウンーと仆れたるを見て最早縡れたる事と合點し次の一發にて我れと我が左耳上部の急所を射擊し即死を遂げたり此物音に一家忽ち大騷ぎとなり直ちに現場に馳込み應急の手當を爲したるに女はまだ虫の息を止め居りしかば直樣漢城病院に運び男は其務め先きなる某官署に届け出で警官立會檢視を遂げ友人等に於て之を引取りたり

▲無理か合意か みちが虫の息を吐きながら云ふ處に依れば自分は情死の氣は無かりしに突然短銃を差付けられたりとの事なるも世人の言ふ處にてはみちこそ却て深入り爲したるものにて折に觸れ小松に向ひ情死を迫り居たりとの噂なるが詳細は追て報道すべく尚はみちは重傷なるも多分生命は取止むべしと

●日韓書房の納涼會

常に嶄新なる賣出し方法を講じて客足を惹き顧客をして爭つて店頭人山を築かしむる本町二丁目の日韓書房にては「弊店開業以來多大の御引立に預り追々隆盛に向ひ候段各位御同情の賜ご深く奉感謝候、就ては聊か平素の御愛顧諸彥に報ゐん爲め云々」といふ冒頭の下に七八二ヶ月の間左の方法を以て納涼會擧行の由なるが時節柄思ひ付きの催しといふべし、なるが故に最後の文句に「顧々御來店の程を」と附け加へあるは正に左もあるべき事なり

●方法● 御買上金一圓毎に最も趣味ある面白き炙り出券一枚進呈(但當選の方は期間内に前以て住所姓名御通知願度候地方の方にて當日御出席六ヶ敷人には相當の弊店商品切手進呈仕候)

▲期間● 第一回自六月十五日至七月十四日 ●第二回自七月十五日至八月十四日

▲擧行● 第一回一百名を七月十八日午後六時第二回を八月廿二日午後六時右は一回毎に百名を限り二回合計二百名を右の日を期し南山公園下辻屋花園(キリンビヤビール)に於て晩餐會の御饗應申上候

●相川の追善劇

關西の三川とて淸川、橋川、相川と並び稱せられたる新派俳優の腕利き相川彌郞は先般木浦明治座に開演中病死したるが當地京城座々附俳優は明日曜日正午より同座に於て追善劇を擧行し其揚高を以て目下病床にある妻女に寄贈する筈にて出し物は優が生前得意とせし「公明正大」と極まり入場料は金拾錢の据り勝ち尚は歌舞伎座出勤の俳優等も當日だけ同座に加はり應援を爲す筈なりと

●紳士の遊興振

右は筆者病氣に付き本日休載

●賭博類似の商賣

長谷川町二の四九大川市三郎(四十)は去る十日午後十時頃本町一丁目憲兵分遣所前に露店を出し半紙に碁盤目を畫し之に菓子を張り番號記入の白紙を水に浮べて番號の現はるゝ樣の仕構をし番號符合の箇所に置きある菓子を與ふる仕掛けにて通行人に勸誘なし居たるを發見されしが右は全く賭博類似の商賣なるを以て其筋より嚴禁せられたり

●怪しき若者

馬山京町川野虎彥(十七)は一昨日午後十一時三十分頃本町三丁目町田文次郎方新築工事場板園内に忍び居たるを本町派出所に訴ふる者あり警官出張して取調べたるに同人は無斷家出して一昨夜當地に着したるも全く土地不案内の爲め同所に夜明かしを爲し居たる旨申立つるも不審なる點ありしかば南部署に留置し目下馬山署に照會中なり

●東京大相撲勝負附

四日目の勝負鳳に駒ヶ嶽の手捌及び五日目の取組左の如し

勝		負
小常陸	(すくひ)	錦戶
高見山	(たおし)	黒瀨川
伊勢濱	(よりきり)	大港
太刀山	(はたき)	大緑
梅ヶ谷	(分)	兩國
中入		
山泉	(だし)	藤見嶽
千年川	(かひなひねり)	鏡川
鶴渡	(つりだし)	尼ヶ崎
鳳	(なげ)	駒ヶ嶽

勝		負
小柳	(だし)	有村
上ケ汐	(ちやうちやう)	浪の音
大の川	(休)	司天龍
國見山	(分)	朝嵐
後		
稻瀨川	(分)	紫雲龍
碇潟	(こて)	立川
西の海	(よりきり)	玉椿
常陸山	(だし)	緑島

右の内鳳に駒ヶ嶽は鳳は一月場所の〆幕の初陣に於て劈頭第一に此の大敵を擊破し以て大に雄名を馳せたり駒の爲には復讐戰なり爭で勝ざるべけんや去れども駒の取口には細心を缺く所多し必勝期すべからず觀客狂喜して此の勝負を迎ふる所以なり呼吸を合して立上るや鳳左を差し咄嗟に例の右足を捲き二度までは駒防ぎしが三度目の搦み投見事に極つて駒はコロリと土俵の砂に埋められ鳳は又もや大功名を博したり

「五日目取組」

鬼龍山	有村
大湊	錦戶
千年川	司天龍
小常陸	鳳
山泉	鶴渡
浪の音	玉椿
兩國	太刀山
朝嵐	梅ヶ谷
小柳	梅の花
高見山	立川
尼ヶ崎	黒瀨川
碇潟	鏡川
大緑	伊勢濱
西の海	緑島
駒ヶ嶽	國見山
常陸山	上ケ汐

●蜜柑水の腐敗

仁川署にては市内にて販賣せる飲良水中不良品あるを以て嚴重なる取締をなしつゝありしが一昨日濱町二丁目木元と方販賣の蜜柑水は腐敗しありたるより直に全部投棄を命じたりと

●飼犬通行人を咬む

仁川花町三丁目藥種商中川淸五郎方の飼犬は一昨日同町洗濯屋西本松太郎の長男信雄(十四)に飛み付き膝下の二錢銅貨大の肉を咬み取りたるより直に獸醫の診察を仰ぎたる所狂犬にはあらずと

●仁川酌婦の檢梅

仁川警察署にて内洞に於ける酌婦の檢梅を昨日施行したるが二十三名の中健康者十七名他の六名は有毒者なりしかば洗滌をなさしめたりと

●看護婦の天然痘

仁川避病院看護婦朝倉さく(三六)は一昨日天然痘に罹り直に同院にて療養を加へ居れる由

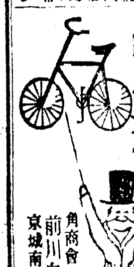


演藝界

▲永樂亭●●● 吉田辰丸一座の浪花節にて明日より開場する筈

▲京城座●●● 本日の替りは「松風村雨」全六幕にして重なる役割左の如し 矢田周一(いろは)栗原博士(稻葉)北浦乙哉(橋本)樋川昌之(青山)幸子(東)美代子(横山)髮結れ琴(郡)母淺子(瀨川)

廣告



●新聞料　一ヶ月前金（郵税共）…
●廣告料　…
發行所　京城…
電話六六…
秋山忠三郎
高木久太郎